

## 教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	おすすめメッセージ
坪井 明彦 先生	
① 図書名：奇跡の社会科学 現代の問題を解決しうる名著の知恵  著者：中野 剛志 出版社：PHP 研究所	本書は、社会科学の古典といわれるもの—マックス・ウェーバー「官僚制的支配の本質、諸前提および展開」、エドマンド・バーク『フランス革命の省察』、アレクシス・ド・トクヴィル『アメリカの民主政治』等について解説されています。古典を読んでも、時代が違うのだから、今は役に立たないと思うかもしれません。しかし、人類の歴史において数百年は非常に短い時間といえます。科学技術は進歩しても、この間、人間自体はほとんど変わっていない。だから、現代でも共通の問題が生じ、これらを読むことで解決策について考えができるのだと思います。 表紙に「教養にして実用」と記載されていますが、読んでみると、まさに、実際に役立つ考え方だと感じました。
② 図書名：失敗の科学  著者：マシュー・サイド 出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン	本書は、オックスフォード大を首席で卒業した異才のジャーナリスト（元オリンピック選手）が、医療業界、航空業界、グローバル企業、プロスポーツチームなどあらゆる業界を横断し、失敗の構造を解き明かしたものです。 なぜ、「10人に1人が医療ミス」の実態は改善されないのか？ 「ミスの報告を処罰しない」航空業界が多くの事故を未然に防げている理由は？ 重要なのは、失敗しないことではなく、失敗から積極的に学ぶこと。たくさん失敗し、たくさん学んだ方が成功の可能性は高まる。そう考えることができます。
③ 図書名：多様性の科学  著者：マシュー・サイド 出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン	同じぐらいの年齢、同じ性別、同じような価値観をもつ同質的なメンバーから構成される組織やコミュニティの方が、所属するメンバーにとっては居心地がよいし、楽であることは間違いないでしょう。 ではなぜ、多様性が必要だと言われるのか？ 均質的なメンバーからなる組織の問題点とは何か？ 多様性を活かすにはどうすべきか？ 本書は、さまざまな事例を利用しながら、このような問題に対する答えを提示しています。